

国語 第6学年 せんねん まんねん / 名づけられた葉

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の9月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

詩から理解したことを基に、自分の感じ方や考えをまとめる。表現の工夫を根拠に考え、抽象的な感想と本文から読めることを区別する。単元の終わりに残すのは、本文の根拠、自分の考え、交流後に付け加えた見方を示す短い鑑賞文。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)ク	ク 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。
〔第5学年及び第6学年〕C読むこと(1)オ	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

単元の目標

比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。詩を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。〔知識及び技能〕(1)ク)	①「読むこと」において、詩を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全2時間（読②）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○本文の言葉と初めの感想を対応させる。表現の工夫と印象を確かめる。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 (本時)	○本文の根拠を示して考えを伝え合う。友達の見方を踏まえて自分の鑑賞文を直す。	思①（発言・学習記録）

本時の案

本時の目標：詩を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「自分の考えにつながったのは、どの言葉や表現ですか」 【めあて】詩から理解したことを基に、自分の感じ方や考えをまとめる。 〈予想される児童の反応〉 ・初めの印象が別の行を読んで変わった。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「自分の考えにつながったのは、どの言葉や表現ですか」 本文の根拠を示して考えを伝え合う。友達の見方を踏まえて自分の鑑賞文を直す。 本文の根拠、自分の考え、交流後に付け加えた見方を示す短い鑑賞文。 自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・初めの印象が別の行を読んで変わった。 ・自分の経験と似ているが、詩には違う見方もある。 ・友達の根拠を聞いて読み直すと考えを付け加えられた。	教科書本文の言葉と自分の経験・考えを欄で分け、関係する箇所を線でつなぐ。詩に書かれている事実と読み手の推測を分けたうえで、自分の考えを説明する。 想定するつまずき：作品を道徳的な標語にまとめる、経験談だけで本文との関係がなくなる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 詩を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（発言と学習記録）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・友達の根拠を聞いて読み直すと考えを付け加えられた。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「自分の考えにつながったのは、どの言葉や表現ですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまずきやすい所と手当て

つまずきとして、作品を道徳的な標語にまとめる、経験談だけで本文との関係がなくなる。この場合は、教科書本文の言葉と自分の経験・考えを欄で分け、関係する箇所を線でつなぐ。詩に書かれている事実と読み手の推測を分けたうえで、自分の考えを説明する。おおむね満足できる状況は、詩を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

本文の根拠、自分の考え、交流後に付け加えた見方を示す短い鑑賞文。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（6年）「6年」87行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/1fcac788-a61c-4521-a515-9a40f3413770/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

